

## 品種の紹介

### 黒穂病など病害に強く倒伏しにくい南西諸島向け 飼料用サトウキビ新品種「やえのうしえ」

#### 【開発の背景】

南西諸島ではサトウキビ生産とともに肉用牛繁殖経営が重要な産業となっています。一方で飼料とする牧草生産用の畑が少ないこと、台風や干ばつなどに見舞われやすい環境にあり牧草生産が不安定であることから粗飼料が不足しがちです。そこで当センターでは粗飼料増産に向けて、既存牧草ローズグラスよりも収量性が高く、省力的に生産できる飼料用サトウキビの開発に取り組んできました。これまでに鹿児島県熊毛地域向けに「KRF093-1」、鹿児島県奄美地域および沖縄県全域向けに「しまのうしえ」を育成し、普及を進めてきました。しかし、これらの品種はそれぞれ、さび病類の発生、収穫時期が遅れた際に倒れやすいことが課題となっていました。「やえのうしえ」はこうした課題を改善しつつ、サトウキビの最重要病害である黒穂病への抵抗性をさらに高めた品種です。



製糖主要品種  
農林8号

×



沖縄県西表島自生野生種  
黒穂病抵抗性極強  
西表8



耐病性  
耐倒伏性  
多収  
南西諸島全域  
やえのうしえ

図1 種間交雑により育成された新品種「やえのうしえ」

#### 【品種の特徴】

「やえのうしえ」は製糖用品種「農林8号」を種子親、西表島で収集された黒穂病抵抗性が極強のサトウキビ野生種「西表8」を花粉親とする、国内自生のサトウキビ野生種を利用して育成した初めての品種です(図1)。育成地の種子島において「KRF093-1」よりも高い乾物収量が得られます。また、沖縄本島では既存牧草のローズグラスより多収です。収穫時期が遅れても比較的倒れにくく、機械作業適性が優れていることも特徴です(図2)。

#### 【期待する活用場面】

「やえのうしえ」は八重山諸島(西表島)自生の野生種を花粉親とし、八重山諸島(石垣島)で交配されました。そして「しまのうしえ」に続く「島の牛の恵」となることを願い、命名されました。黒穂病やさび病類をはじめとする各種病害に対する抵抗性が高く、倒れにくいという特徴を生かし、南西諸島全域を対象に機械収穫を前提とした畜産経営農家や飼料生産組織などを中心に広く活用していただくことを期待しています。

【作物開発利用研究領域 早野美智子】



しまのうしえ

やえのうしえ

図2 収穫期における「しまのうしえ」(左側)と「やえのうしえ」(右側)の草姿  
(2016年8月30日、沖縄県南城市現地試験圃場)